

R8年度 全体的な計画

<p>法人 保育理念</p>	<p>生涯にわたる人間形成は、乳幼児期にその基礎は培われる。将来社会の一員として、より良く生きるべき基礎を形成するために園を家庭の延長線上に位置づけ、子どもがより健康安全で安定した情緒の基に個性を充分発揮できる環境を整え、健全な心身の発達を図ることを理念とし事業・保育を行う。</p>		
<p>めざす子ども像</p>	<p>『心豊かな子どもを育む』 ①人にやさしい子ども ②礼儀正しい子ども ③感動できる子ども ④心身ともに健康な子ども</p>		
<p>教育・保育 目標</p>	<p>①子どもの様々な欲求を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定をはかる。 ②基本的な生活習慣や態度を養い、心身の健康の基礎を培う。 ③人に対する愛情・信頼感・人権を大切にすることを育て、自主・協調の態度を養い、道徳の芽生えを培う。 ④生活する環境の変化について、興味や関心を持ち、豊かな心情や思考力の基礎を培う ⑤言葉への興味や関心を育て、聞いたり、話したりする豊かな態度や、意欲を養う。 ⑥様々な体験を通して、それを自己表現し、豊かな感性・創造性の芽生えを培う。</p>	<p>教育・保育 ビジョン</p>	<p>①やりたいことを見つけ、とことんあそぼう ~おもいっきりあそぶ!~ ②自分らしさを認め合おう ~じぶんがスキ。みんなもスキ!~ ③いろいろなことに挑戦しよう ~やってみよう。をやってみよう!~</p>
<p>教育・保育 方針</p>	<p>「子ども一人一人に愛情をもって寄り添う保育」 「やりたいがとことんやれる保育」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの心情に寄り添う ◎子どもをよく観察し、対話し、一緒にあそび込む ◎子どものやりたいを大切に、子ども自身でゴールを見つけるように 	<p>期待する 保育者像</p>	<p>子どもたちから学ぶ姿勢を大切にする保育者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の専門家として向上心を持ち、実践力と協調性をもつ保育者 ・子ども一人ひとりの最善の利益を尊重し、年齢の発達を理解して状況に応じた保育ができる保育者 ・子どもが主体的に活動できるよう、快適な環境設定のできる保育者 ・子どもの個性を認め、個別の対応と保護者支援ができる保育者 ・法令順守の保育者 ・心身ともに健康で、笑顔の絶えない保育者
<p>健康支援・管理</p>	<p>嘱託医による内科健診(年2回) 歯科健診(年1回)、身体測定(毎月)、日々の健康状態の視診、食育の推進、保健指導(手洗い・うがい・歯磨き) 献立表の発行、食アレルギー対応(除去食等)、感染症の予防・対応</p>		
<p>環境・衛生管理</p>	<p>園舎内・園庭の清掃、0・1歳児の玩具の洗浄・消毒、敷きパット・マットの洗浄、砂場の点検・清掃、プール水質管理(7・8月)、職員検便、職員健康診断、感染症の早期発見・予防(対応マニュアル)、衛生管理マニュアル</p>		
<p>事故防止 安全対策</p>	<p>避難訓練(火災・地震:毎月、総合訓練:年1回)、消防設備等点検(総合年1回・機器年2回)、自主点検、非常時備蓄品の確保・点検、救急救命講習、ヒヤリハット報告・対応、事故記録簿、虐待マニュアル、安全マニュアル</p>		
<p>子育て支援</p>	<p>園だより・クラスだよりの発行、個人面談、関係機関(発達支援センター等)との連携、連絡帳による情報交換(0・1・2歳児、毎日)、高齢者との交流</p>		
<p>職員の研修</p>	<p>職員育成(キャリアアップ)計画に基づく研修、外部研修、園内研修、グループ会議・ケース会議</p>		
<p>小学校との接続・連携</p>	<p>小林市幼保小連携研修会への参加、「保育要録」の作成・情報交換、野尻小との連携(児童と園児の交流、施設の利用)</p>		
<p>自己評価</p>	<p>年間計画の作成と評価、自己評価シートによる自己評価</p>		

年齢区分		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		保育指針に定めるねらい	
養護	生命の保持	家庭との連絡を密に取り、一人一人の健康状態を把握し生活リズムを整えていく。生理的欲求を満たし、気持ちよく生活できるようにする。		健康で安全な生活ができるような環境の中で、応答的な関わりを通して生理的欲求を満たされるようにする。		生活や遊びの中で自我が育つような関わりを持つ。 気候や季節に応じた体調管理をする。		基本的な生活習慣を身に付けられるよう援助する。		基本的な生活習慣を身につけ意欲的に生活できるようにする		基本的な生活習慣が身につく、見通しを持って生活できるようにする。健康に関心を持ち、安全に過ごすことへの意識を高める。		①一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする。 ②一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする。 ③一人一人の生理的欲求が、十分に満たされるようにする。 ④一人一人の子どもの健康増進が、積極的に図られるようにする	
	情緒の安定	子どもが示す様々な行動や欲求に適切に応え、応答的なふれあいや言葉かけを行い、安心して過ごせるようにする		スキンシップや子どもそれぞれの気持ちに寄り添い共感することで、自分の気持ちを安心して表わす事ができるようにする。		子どもの気持ちを受容し、共感しながら継続的な信頼関係を築いていく。		子どもが主体的に活動し、自分への自信や自己肯定感を育めるようにする		保育者との信頼関係を基盤に一人一人の子どもが主体的・自発的に活動できるようにする		就学を意識した生活の中で自己肯定感が育ち仲間との一体感を感じながら自信を持って活動できるようにする		①一人一人の子どもが、安心感を持って過ごせるようにする。 ②一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。 ③一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする。 ④一人一人の子どもの心身の疲れが癒されるようにする。	
		0歳児		1歳児		2歳児		3歳児		4歳児		5歳児		幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	
保育	健やかに身体的伸び伸びと育つ	乳児の目の前に新しい世界を作り、乳児が自分から意欲を寄せていけるよう、一緒に楽しみながら、寝返り、ハイハイ、お座り、つかまり立ち、伝い歩き、一人立ちの段階を踏んで歩行に繋げる。		魅力的な環境のもと、興味のあるあそびを通して、歩行や、手の操作など運動能力が高くなる。		戸外で元気に遊ぶ。 色々な遊具・教材に触れ、全身や手指を使う遊びをたくさん経験する。		健康的な生活のリズムを身につける。 外で十分に身体を動かし、様々な遊具や用具を使って遊ぶ。		健康的な生活の仕方を知り、見通しを持って行動する。 様々な道具を使い、複雑な運動やルールのある集団遊びを通して身体を動かす。		危険な場所や事物などがわかり、安全について理解して行動する。 生活のけじめをつけたり、健康に過ごすための体力作りの必要性に気づき自分で意識して身体を動かす。		①健康な心と体	
		園生活を通して食事、睡眠、遊びなど生活リズムが育つ。		保育士との安定した関係の中で、身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもとも関わりをもつ。		保育者との安定した関係の中で、身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもとも関わりをもつ。		やってはいけないことが分かり気持ちを抑制することを経験する。 簡単なルールを守って遊ぶ。		保育士や友達との関わりの中で感情をおさえたり、自分の気持ちを表現したりしながら友達関係を築く。		互いに相手を許したり認めたりできるようになり仲間の一人としての自覚や自信をもてるようになる。		②自立心 ③協同性	
	身近な人と社会的発達が通じ合う	子どもの思いをくみ取りながら、子どもの耳に心地よい言葉で話しかけるなど、応答的な触れ合いや語りかけにより、言葉の理解や発語の意欲が育つ。		遊びたいもので満足して遊ぶ。 あそびや経験をを通して季節を知り、自然のものに興味を持つ。		様々な物に触れ合う中で好奇心や探究心をもつ。		身近なものに興味をもって関わり、大切にしようとする気持ちをもつ。		身近な物や遊具に興味を持って関わり考えたり、試したりして、工夫して遊ぶ。 自然の移り変わりを感じながら、遊びに取り入れて楽しむ。		公共の場での行動の仕方を理解して、ルールを守り気持ちよく生活できるようにする。 日常生活の中で、数量や図形、簡単な標識や文字に関心をもつ。		④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え	
保育士との深い関わりにより基本的信頼関係が生まれるとともに、人と関わってあそぶことへの期待が育つ。		保育士の応答的な関わりにより言葉のやり取りを楽しみ、身振りや言葉で気持ちを表そうとする。		保育者を仲立ちとして、友達との言葉のやり取りを楽しむ。 生活に必要な簡単な挨拶が保育士と一緒に言える。		自分の思いを言葉で伝えようとする。 遊びを通して、生活に必要な言葉を豊かにする。		人の言葉や話に興味や関心を持つとともに経験したことや思いを自分なりに言葉で表現する。		保育士や友達との会話を楽しみ、相手にわかるように話す。 色々な経験をを通してイメージや言葉を豊かにする。		⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚			
身近なものが精神的育つ関わり感性	生活の中で様々な音、形、色、光、手触りなどを感じて楽しむ。 安心できる環境の下で身近な物に興味・関心をもつ。 保育者が歌うわらべ歌や触れ合い遊びを通して、手足を動かして喜ぶ。		保育者や友だちと一緒に体を動かすことや踊ることを楽しむ。 水、砂、土、紙、粘土等様々な素材に触れ感覚を楽しむ。		生活の中で自分なりのイメージを膨らませ楽しんで遊ぶ。 歌を歌ったり、手遊びや全身を使う遊びを楽しんだりする。		考えたことや感じたことを音や動きなどで表現したり、自由に描いたり作ったりする。 簡単なリズム楽器を使って音楽に親しむ。		生活の中で様々な音・色・形・手触り、動き、味、香り等に気付いたり感じたりして楽しむ。 イメージをふくらませ、豊かに表現する。		感じたこと、想像したことを音楽、造形など自由な方法で豊かに表現する。 材料や用具を目的に合わせて選び、友達と一緒に伸び伸びと表現する。		⑨言葉による伝え合い ⑩豊かな感性と表現		
	食育		食べることに意欲を持つ。 様々な食材を食べ、食感や味に慣れていく。		自分で食べようとする気持ちを育て、食べることの楽しさを感じられるようにする。		季節に合った食材を知り、楽しみながら食べられるようになる 保育者の声かけで苦手なものも少しずつ食べてみようとする。		食生活に必要な習慣や態度を身につける。 生活と遊びの中で、意欲をもって食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しむ。		食事に必要な習慣、マナーを知り自ら進んでおこなう。 いろいろな食べ物に興味を持ち健康な体づくりをする。		食材と身体の関係を知り興味が持てるようにする。 意欲を持って食に関わる体験を積み重ね食べることを楽しめるようになる。		●「食を営む力」の基礎を培うことを目標とする ●食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことが期待されている